

子どもたちといっしょに



オリビア イアン・ファルコナー 作
谷川 俊太郎 訳 (あすなろ書房)

オリビア。女の子(こぶた)。パパとママとおとうと、それにいぬのペリーとねこのエドウィンと住んでいる。得意なこと、歌うこと、おじること、砂のお城作り、それにひとをハとハとにすること!

本も好き。でも、お母さんはもっともっと好き! 読んだあとは自然と顔がほころんでしまいます。

モノトーンの中に赤い色が入ると、とてもすてきな絵。文章も一文一文が短く、まるでリズムにのって踊っているよう。

子どもは何にでも興味をもち、でもすぐに違う遊びをし、一緒にいるおとなをハとハとにしてしまうくらいエネルギーで、オリビアとまったく一緒。

オリビアのママと同じようにあたたかい愛情を子どもたちにそそいで

下さい。

♪ア×ア×フレフレ カアサンが ♪ @ @ @ ジャノメデオムカエ ウレシイナ ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン



第57回 読書会 「火車」 宮部みゆき 著 (新潮社)

日時: 7月17日(日) 1:30~3:30

場所: 白根学習館2階 ルーム2

山本周五郎賞に輝いたミステリー作品。

失踪した婚約者を探るうちに奇妙な事件へと発展してしまう。

カード社会の影にひそむ人間の生! (しろね図書館友の会)

♪ テルテルボウズ テルボウズ アシタテンキニ ミテオフレ ♪ (しろね図書館 共催)

7月の行事 ブックバス

6 (水)	絵本のじかん 3:00~	大鷲小 12:30~12:55 根岸小 13:10~13:50	17 (日)	第57回読書会 1:30~	
7 (木)		白根北中 13:00~13:40 大通小 14:00~15:30	20 (水)	絵本のじかん 3:00~	根岸小 13:10~13:50 大鷲小 14:30~15:45
8 (金)		白根小 13:00~13:50 小林小 14:30~15:30	21 (木)		白根北中 13:00~13:40 大通小 14:00~15:30
9 (土)	おはなし会 10:00~ おはなし会 3:00~	新飯田農公 14:30~15:00 戸石公 15:30~16:00	22 (金)		白根小 13:00~13:50 小林小 14:30~15:30
13 (水)	第7回 あかちゃん おはなし会 3:00~	新飯田小 12:30~13:20 茨屋根小 13:30~14:30	23 (土)	おはなし会 10:00~ おはなし会 3:00~	新飯田農公 14:30~15:00 戸石公 15:30~16:00
14 (木)		白南中 12:55~13:35 庄瀬地C 14:00~14:40 庄瀬小 15:00~15:45	27 (水)	絵本のじかん 3:00~	
15 (金)		臼井小 12:55~13:35 臼井中 14:00~15:30	28 (木)	第6回 図書館員になってみる日 午前の部 9:00~ 午後の部 2:00~	
16 (土)	おはなし会 3:00~	大通地C 14:30~15:00 根岸農公 15:30~16:00	30 (土)	おはなし会 3:00~	大通地C 14:30~15:00 根岸農公 15:30~16:00

しろね図書館だより

No. 62

発行 新潟市立白根図書館
平成 17年 7月 1日

われは草なり
伸びんとす
伸びられるとき
伸びんとす
伸びられる日は
伸びられる日は
伸びるなり
われは草なり
緑なり
全身すべて
緑なり
毎年かわらず
緑なり
緑の己れに
あきぬなり
われは草なり
緑なり



高見 順

ますます、緑の濃い季節となりました。白根学習館の芝たちも夏の白差しの中で豊かに伸びています。
草だけでなく、木も花も、そして私たち人間も少しずつ成長していきます。心の栄養に本を読みましょ。

6月の
来館者 ----- 15,778 人
貸出冊数 ----- 15,645 冊
予約件数 ----- 154 件

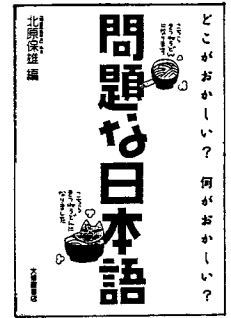
ブックバス利用者 ----- 1,015 人
ブックバス貸出冊数 --- 2,281 冊

リクエスト情報(しばらくお待ち下さい)
1位・ハリポッターと不死鳥の騎士団 (5名)
2位・anego 陰陽師 太極ノ巻 電車男 日暮らし (2名) 他

□第6回 図書館員になってみる日 * * * * *
図書館って本の貸出・返却のほかにはどんな仕事をしているんだろう? 1日だけ図書館員になって、いつもと違う図書館を体験しよう!
日時: 7月28日(木) 午前の部 9:00~11:00, 午後の部 14:00~16:00
対象: 小学校6年生、中学校1年生、2年生 ※各部9名まで
申込み: しろね図書館 TEL 025-372-5510 7月21日までにお申し込み下さい

～図書館員がおすすめするこの一冊～

北原保雄 編(大修館書店)
一般 810円



『問題な日本語』

この本を読む前に、表紙の感じからおもしろい内容の本だと思いましたが、読んでみると内容はいたって真面目でした。「おビールをお持ちしました」、「よろしかったでしょうか」、「お連れ様がお待ちになっております」など、33の『問題な日本語』について、『明鏡国語辞典』の編者、北原保雄氏並びに4名の編集委員が、真面目解説されている。なお、刊行の要因は明鏡国語辞典の刊行を記念して、全国の高等学校の国語科の先生方に「気になる日本語」を指摘していただき、それらの用法について解説するという試みを行ったところ、大変な好評だったことから、今回、より具体的な情報なども加えて書き改め、1冊の本として刊行されたものです。言葉は、時代によって新陳代謝を繰り返し、以前はそれがあたりまえであったものが、今では違っている。

どんどん言葉の使い方は変化していくものだと思います。この本は、単に例題をあげ「この表現は間違い」と指摘するだけのものではなく、その表現が生まれた経緯を明らかにし、今後その表現が、「正しい表現」として定着していく可能性について言及しています。日本語の現在において、正しい日本語がわかる本です。毎日なにげなく使っている言葉の使い方について確認の意味でも一度読んでいただきたい一冊です。

(星 島 等)

夏休みには！図書館へ行こう

- ★ 8月5日(金)【絵本・物語にでてくるおやつづくり】
おいしいお菓子和楽しいおはなしに来ませんか？
今回のお菓子は「鏡の国のアリス」のバターつきパンのプディング、「あしながおじさん」のレモンゼリー！
対象：小学校1年生～6年生 参加費：500円 募集人数：12人(1グループ6人)
*くわしくはチラシをごらんください
- ★ 8月20日(土)【こわ～いおはなし大会】
暑い夏にこわ～いおはなしで涼しくなろう。
午後2時30分より開催 場所：しろね図書館おはなしのへや

第56回読書会

平成17年6月19日(日)
午後1時半～3時半 参加者7名

「あのころはフリードリヒがいた」

ハンス・ペーター・リヒター 作
上田真而子 訳
岩波書店



「あのころはフリードリヒがいた」は こんなおはなし

ヒトラー政権下のドイツ。

「ぼく」はドイツ人。舅の家のフリードリヒはユダヤ人。同じアパートに住む、ふたりは友だちだった。そして、戦争は始まった――。

同じ年の二人の少年を通じて、反ユダヤの嵐に巻き込まれていく人々を描いた作品。

時代順に日常を切り取った32編のスケッチは、語り手の「ぼく」の視点から、淡々と綴られていく。滲み出す不安、拡がる悲劇の予感、そして……、虚飾を交えないからこそ、よりいっそう読者の心に迫る、これはそんな物語。

★ ★ 参加者の感想から ★ ★

◆普通の人でも、こういう時代だとみんなこんなふうになって怖いなと思った。

◆戦争は理不尽なものだとみんなわかっているはずなのに、どうしてこんな恐ろしいことが行われてしまうのだろう。

◆目をそらさずに、受け止めなければならぬ。

◆情緒的にはなく、淡々と事実を書き進めていくような印象。それがむしろ切実に読者の胸を打つ。

◆進むにしたがい「ユダヤ人は決していけない」種々の法律が増えていく。だんだんユダヤ人たちが迫害されていく展開になっていくのが切ない。

◆隣家の羽振りがよかった頃、主人公一家に情けをかけているかにも思われて、逆に辛いのではと心配したが、あくまで好意に受け取っていてよかった。

◆フリードリヒの一家の信仰の強さ。酷い目にあわされ続けて、なおドイツに留まろうとするその信念はどこから来るのだろう。

◆皆が皆、好き好んでユダヤ人を差別していたわけではない。先生や裁判長、書長のような人もいる。ただ、非国民呼ばわりを恐れてそうしていただけ。

◆戦時中を描いた日本の下町にも必ず出てくるのがレッシュユ氏のような人物。悪役に近い扱いだ。平和であつたらいい人だつたらう。

◆フリードリヒが女の子と仲良くなるエピソード。彼女は一人の人間として接してくれていた。大人たちが振り回されていく中で、子どもたちはまだ真っ直ぐなものを失っていない。この悲しい物語の中の僅かな救いだ。

◆ソロモンの話が悲しい。王が兵士たちの欲を満たし、さらなる富を求めるために、何の罪もないユダヤ人に対する略奪を命じる。歴史は、悲劇は繰り返され、人は進歩していかないものなのか。

◆戦争の恐ろしさもさることながら、民族や宗教の問題をも包みこまれた物語であった。

◆訳者は旅行の際にドイツの書店でこの本を薦められたそうだが、はたして日本でこの本のように外国の人に薦められる良書はあるのだろうか？

◆この本に書かれていることは、当時においては何も特別なことではなく、ありふれた悲劇のひとつにすぎなかった。これだけの悲劇を無数に生み出し得るというだけでも、「戦争はいけないことだ」と主張するには十分すぎるだろう。

★ ★ ★ ★ ★

さて、次回の読書会は、
宮部 みゆき 作

「火車」

7月17日(日) 午後1時半～3時半

本は、図書館カウンターで貸し出ししています。どなたでも気軽に参加できますので、どうぞおいでください。お待ちしております。